第2回伝統医療看護連携学会学術大会

近年の中国、「日本の腹診」に注目

悪阻への鍼灸など妊産婦ケアの講演も

『第2回伝統医療看護連携学会学術大会』が11月29日～12月20日、オンデマンド配信方式で開催された。大会テーマは『拡げよう連携医療の「わ」』。

学術大会長講演は『東洋医学こぼれ話―東西融合のコンセンサス成熟を目指して』と題して、亀井啓氏（中庸堂亀井接骨鍼灸治療院院長）が登壇。古代中国で神医とたたえられた扁鵲が紀元前に、鍼の原型と推察される「砭石（へんせき）」で悪性の腫瘍を切除したといったエピソードの紹介に始まり、中国の南方では高温多湿で薬草となる植物が豊富だったため湯液治療が発展、北方ではそういった植物が乏しかったため鍼灸治療が発展してきたことなど、現在の東洋医学のルーツや歴史について概説した。『神農本草経』や『傷寒雑病論』といった古典にも触れ、『傷寒論』と『金匱要略』によると3世紀初め頃には既に腹診が行われていたが、中国では肌身を見せる治療の指示が得られなかったと指摘。ところが、中国から伝わり独自の進化を遂げてきた「日本の腹診」が近年になって注目されてきていると述べた。

亀井 啓氏

非投薬・遠隔治療があはきの長所に

看護師・助産師・あはき師の高橋佳奈氏（助産所みるきい、株式会社ファースト・ケア デイサービス面瀬あんしん館）が、『妊婦に対するケア』をテーマに教育講演を行った。妊産褥婦にとって、薬を安易に服用できない時期であること、腹部や乳房に直接刺激せず遠隔的に行えるといった点などからも、あはき施術の必要性を説明。有効とされる妊産褥婦のマイナートラブルとして妊娠悪阻、腰痛、骨盤位、産痛緩和、分娩誘発、乳汁分泌過不足などを挙げた。妊娠悪阻には心下痞硬や胸脇苦満といった触診上の所見があり、治療する上での取穴は内関や郄門、公孫など、また督脈上の反応のある経穴への座位での透熱灸も行うと解説。ただ、妊娠悪阻そのものの症状は鍼灸による緩和が期待できるが、「つわりがひどすぎるので中絶したい」と訴えるまでになった妊婦を精神科へ送ったケースもあったとして注意を促した。

一般演題（口演）で赤門鍼灸柔整専門学校臨床教育専攻科に在学する杉浦智子氏が『灸とその効能に関するアンケート調査』の結果を報告した。灸の認知度については「あまり知らない」が一般群で61％、鍼灸学生群で18％、「よく知っている」は一般3％だったが、学生でも13％のみにとどまったと説明。効能についてはいずれも認知度が低かったというデータを示し、鍼灸院での普及啓蒙とともに専門学校における灸教育の更なる充実も必要であると呼び掛けた。

ほかに一般演題（口演）7題、一般演題（ポスター）2題、ミニセミナー等3題が行われた。

第1回美容鍼灸Academic Conference

美容鍼灸代表する各流派 動画で

「美容鍼灸学」皮膚科やエステも取り入れ

第1回美容鍼灸Academic Conferenceが11月22日、東京大学（東京都文京区）及びZoomで開催された。

動画供覧では、美容鍼灸を代表する各流派から9人の施術者による、「今注目すべき美容鍼技術」をまとめた動画が紹介された（下表）。川﨑真澄氏（一般社団法人日本鍼灸協会代表理事）はニキビ美容鍼を紹介。全身への刺鍼後、顔と頭部への10～15分程度の置鍼を行うが、鍼を刺すと周辺1㌢程度の範囲の血流が増加することから2㌢間隔での刺鍼が望ましく、顔全体をカバーするには100本程度が必要だと説明。治療期間には状態によって個人差があり、動画中の例では552日間をかけたが、施術後には多くの患者の場合で好転反応が確認できるとした。美容鍼のニキビ治療への有効性を普及し、より多くの患者の力になっていきたいと話した。

特別講演では、矢野忠氏（明治国際医療大学学長）が登壇。「美しさ」の認識は、外観はもちろん、内面や仕草といった要素を含んだ概念だと説明した。また、平成24年に同氏らが行った一般女性・施術者双方に対する美容鍼灸の意識調査を紹介。期待する効果はツボの効果・むくみ・リフトアップ、受療者が効果を実感したのはリフトアップ・小顔・むくみが上位だが、いずれも、身体の改善やツボの効能、ストレス軽減などでも一定の評価を得たほか、エステと比べた際に最も優位性が確認できたのは「身体調子改善」だと紹介。主観的健康観を高めることが期待されているとした。一方で、従来の鍼灸の延長として行うのではなく、あくまで美容鍼灸を基盤に学問を確立する必要があると指摘。美容鍼灸学を「鍼灸学」、アンチエイジングや皮膚科領域などの「現代医学」、エステや香粧品科学といった「美容医学」の境界に位置する学際科学として発展させていくことを呼びかけた。

このほか、教育講演『美容皮膚科学』（吉木伸子氏・よしき皮膚科クリニック銀座院院長）、美容鍼灸の機序をテーマにしたシンポジウムなどが行われた。

川﨑氏の実技動画の様子

■動画供覧した施術者と主なテーマ

- 川﨑真澄氏（一般社団法人日本鍼灸協会代表理事）：ニキビ美容鍼
- 田中一行氏（日本メディカル美容鍼協会副代表）
  ：ICCO式美顔はり®による目の際と鼻の施術
- 上田隆勇氏（一般財団法人日本美容鍼灸マッサージ協会代表）
  ：ほうれい線へのアプローチ
- 岡本真理氏（日本メディカル美容鍼協会・麻生ハリーク代表）
  ：立体造顔美容鍼®による目の下のたるみへのアプローチ
- 高野道代氏（疏通経絡健美学会代表）
  ：リフトアップ・疏通経絡健康美法ローリング術
- 折橋梢恵氏（美容鍼灸の会 美真会会長）
  ：頭皮から引き上げるリフトアップ
- 光本朱美氏（ハリジェンヌ代表）
  ：メイクアップとの融合とマスク時の工夫
- 堀口三恵子氏（一般社団法人堀口三恵子美容アカデミー理事長）
  ：頭蓋筋膜美容鍼
- 長谷川亮氏（長谷川亮・鍼灸院院長）
  ：50本の鍼に電気を流すアンチエイジング美容鍼

柔整・あはき政治団体の令和元年収支報告

総務省が11月27日、毎年定期公表している「政治資金収支報告書」の令和元年分をホームページ上に公開。政治団体に対しては、政治資金規正法により1年間の収入と支出の総額と一定の条件での内訳の情報提示が義務付けられており、柔整・あはき業界の政治団体も掲載されている。

主だった団体の総収入から繰越額を差し引いた「実収入額」を見ると、柔整では、日本柔道整復師連盟（工藤鉄男代表）が1億947万円（支出額1億931万円）。あはきでは、日本鍼灸師連盟（仲野弥和代表）が397万円（同810万円）、全日本鍼灸マッサージ師連盟（伊藤久夫代表）が245万円（同401万円）、全国病院理学療法連盟（平野五十男代表）が136万円（同156万円）のほか、柔整・あはきでは、全国柔整鍼灸政治連盟（岸野雅方代表）が685万円（同1,064万円）となっていた。